

# 日本語・マレー語バイリンガル児による名詞修飾獲得過程とその影響

## —誤用例から分かること—

堀尾 佳以 (所属：宇都宮大学)

### 1. はじめに

本発表では日本語-マレー語 (以下, 日-馬) バイリンガル児がどのように2つの言語を習得するのか, その中でも名詞修飾に関する獲得過程についてケーススタディによって得られた誤用例を挙げ, 分析で明らかになった点と今後の課題について述べる。

### 2. 研究の目的

まず, 本研究と関連する先行研究をまとめ, その課題を検討した上で目的を記す。

#### 2.1 関連先行研究

バイリンガル教育に関する先行研究では, 久津木・田浦(2019)が早期英語学習や二言語同時獲得の認知的影響について, 英語の語彙を学ぶ事が他者理解の促進や葛藤抑制能力に影響している可能性を示した。

また久津木(2006)によると混用は「語彙レベルのミキシングは成人バイリンガルのコードスイッチング(略)でも高頻度で見られる分類のミキシング」であり, 「統語レベルでのミキシング」は「深いレベルで二言語の該当する要素の情報共有されて現れるものだと考えられ(略)二言語が同時に獲得された結果による二言語知識の共有そして相互作用によっておこる現象」であるという。

#### 2.2 研究の目的

日-英, 日-中, 日-韓のケーススタディを参考に, 日-馬バイリンガル児にどのような「二言語同時習得」と「乳幼児の語彙獲得」が見られるのか, 日常会話場面を録画・録音し, 分析を進めてきた。

本発表では, 日-馬バイリンガル児2名の語彙獲得についてマレー語で特徴的な名詞修飾に焦点を絞り, どのような誤用例が見られるのか収集・分析し, 誤用傾向を解明することを目的とする。

### 3. 研究方法

#### 3.1 観察対象者とデータ収集方法

対象者はマレーシア人(父)と日本人(母)の間に生まれた日馬バイリンガル児(5歳=A1・3歳=A2, 以下A1, A2)である。主な生活圏である日本, およびマレーシア滞在時(約1ヶ月/年)に場面設定をせず日常会話場面を常に録画・録音している。収集した膨大な資料の文字化と, 発話に関するメモを補助資料としている。

#### 3.2 データの収集時期

研究対象者であるA1, A2の2名については随時録音資料を収集し, 保育者による語彙出現メモを2021年6月より継続して作成してきた。2022年12月の時点でA1は既に多くの言語を習得済みで, A2も3語文以上の習得過程を録音・記録することができた。

#### 3.3 日本語およびマレー語の名詞修飾について

日本語およびマレー語の名詞修飾の語順について, 分析を始める前にまとめておく。

日本語          修飾語 + 被修飾語      例: 新しい車

マレー語          被修飾語 + 修飾語          例: Kereta baru

マレー語では名詞を修飾する際, 修飾される名詞=被修飾語(Kereta: 車)が前置し, 修飾語である形容詞(baru: 新しい)を付加する。このように日本語とは語順が逆になっている。

## 4. 研究結果

日-馬バイリンガル児の、場面を設定しない自然談話録音資料を収集・分析していくうち、統語レベルのミキシングにマレー語・日本語双方の影響が見られた。具体的には日本語の名詞修飾語順（統語レベル）にマレー語の影響が出ている例が見られた。

また、マレー語で会話している際に日本語の語順で発話することもあった。この、名詞修飾について誤用例を見ながら、どのような傾向があるのか考察する。

### 4.1 日本語における誤用例

2021年から自然談話を収集していく上で、名詞修飾獲得過程に関して、様々な誤用が見られた。まずは日本語で発話する際に見られた誤用例である。被修飾語を下線、修飾語を二重下線で示す。

- 誤用例1 : 誤 → ニュースの何, 見てた? A1. 2021. 6月  
 正 → 何のニュース見てた?
- 誤用例2 : 誤 → 〇〇 (名前)の赤ちゃん A1. 2021. 10. 5  
 正 → 赤ちゃんの〇〇 (名前)
- 誤用例3 : 誤 → バスの長いが良い A2. 2022. 1. 13  
 正 → 長い バスが良い
- 誤用例4 : 誤 → 〇〇 (名前) 君のマスクのトミカ! A2. 2022. 11. 5  
 正 → 〇〇 (名前) 君のトミカのマスク!
- 誤用例5 : 誤 → 階段の滑り台のする A2. 2022. 12. 17  
 正 → 滑り台の階段を登る

日本語の名詞修飾は、名詞に「の」を付加して被修飾語に前置するもので、この用法に関する誤用である。日本語格助詞の中でも助詞の「の」は、所有や所属、材料などを説明するものである。誤用例では、説明部分にあたる語と、説明されるべき語が入れ替わっていることが分かる。

また、語彙の借用による混用の例としては、次のようなものもあった。

- 誤用例6 : 誤 → ブーブのijah (イジャ) A2. 2021. 12. 29  
 ブーブ：車を表す幼児語  
 ijah：緑、共通語はhi jau  
 意味：緑色の車
- 日本語 正 → ijah (イジャ)のブーブ  
 マレー語 正 → Keto ijah (イジャ)
- 誤用例7 : 誤 → 車 kening (クニン) A2. 2021. 12. 29  
 kening：黄色  
 意味：黄色の車
- 日本語 正 → 黄色 (kening)の車  
 マレー語 正 → Keto kening (黄色)

こちらも語順はマレー語の名詞修飾と同じである。つまり語彙が全てマレー語であれば、正しい文となるが、日本語の語彙であることで誤用例となっている。

### 4.2 マレー語における誤用例

日馬両言語の獲得が進むにつれ、双方向で影響が出ている例として、マレー語でのミキシングも見られた。

- 誤用例8 : 誤 → Laju Keto (速い 車) A1. 2022. 9. 10  
 ※ Kereta=Keto (クランタン方言)  
 意味：車が速い
- 正 → Keto Laju (車 速い)

